

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0272500638		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホームわたぼうし		
所在地	青森県上北郡おいらせ町向山2592-7		
自己評価作成日	平成22年7月27日	評価結果市町村受理日	平成22年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.aokaigoyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272500638&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年9月17日

(ユニット名)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・法人母体の老人保健施設が各サービス事業所が併設している為、サービスを統合しての相談がスムーズに行うことができます。
・スタッフの年齢層が20～50代と幅広く、なじみ話が弾みます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

老人保健施設が母体施設のため医療連携体制が充実しており、利用者の身体状況の変化に応じた多様な支援や対応ができる体制となっている。
法人内の内部研修の年間計画があり、職員は充実した研修を受けられる体制となっており、法人全体でサービスの資質向上に向けた取り組みがされている。
職員は、利用者とのコミュニケーションを第一に考え、心身の状態に合わせ利用者の思いに沿った生活が送れるよう支援をしている。また、一人ひとり希望に応じて買い物などの外出支援をしたり、毎月季節を盛り込んだ企画をたて、外出する機会を多く作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部 部 部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員は地域密着型サービスの役割を理解している。事業所独自の理念にある地域の文化、行事等の交流を図っている。	管理者や職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、「地域の方々とふれあい、ゆったりと楽しく安らぎある生活環境を提供します」という地域密着型サービスの役割を反映した理念を作成し、毎朝、職員が唱和し、迷いがあれば理念を振り返り、日々理念を実現する取り組みを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の訪問の打診を頂いたり、町内長から、情報を収集して頂いている。	町内から離れた所に立地しているが、運営推進会議等を通じて近隣の人たちに気軽に立ち寄ってもらえるような働きかけを行っている。地域のお祭りに参加するなど交流を深めており、敬老会等施設行事開催時は地域へ案内を行っている。また、ボランティアや体験学習の受け入れも行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やボランティアを受け入れている。個人情報については、説明を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果説明を会議席上で行っている。ご家族様の意見を参考に改善を図っている。	メンバーの参加率も良く、会議の際はメンバー全員が発言している。また、会議で外部評価の結果やホームの課題等、隠さず話すこととしており、会議で出された意見は検討し、改善へと努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議に役場職員が必ず一名が参加され、町内会会長、ご家族様と連携を図っている。	運営推進会議には町職員が必ず出席し、会議を通して、自己評価や外部評価の結果を報告している。状況に応じて行政からの助言をいただく等、連携を図っている。		

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行ため」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	無断外出の事故対策を法人母体の協力体制を継続している。日中は施錠を行わない工夫をしている。	法人内研修やマニュアルを通して、身体拘束の内容や弊害について理解しており、「拘束は行わない」という姿勢で日々ケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、「鈴」を設置し、外出傾向を察知した場合、利用者個々が納得できる方法で付き添うようにしている。事前に併設する施設へ、外出傾向のある方を周知し、必要な時は協力をいただく体制ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人母体の研修や勉強会で学び、入居者の身体変化は情報交換を密に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人母体と勉強会の年間計画を作成し、権利擁護について勉強会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望の際は、見学と施設の説明を行う。 入居、退所時は十分時間をかけて説明をした上で契約締結をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見を頂き、改善や改善点は運営推進会議等で公表している。	玄関先に意見箱を設置している。意見や相談は職員に直接話してもらうよう働きかけ、面会時にゆっくり話を聞くようにしている。また、毎月、家族へ利用者の暮らしぶり、写真、健康状態、受診状況、金銭管理状況を報告している。	

自己 外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員が発言しやすい場面作りや月例会議で議案決定を充分協議している。	事業所の運営方法や利用者の受入れ等の決定事項について、月次会議で意見交換しており、全職員の考えや意見を尊重するよう努めている。職員の異動は極力行わないようにしており、異動等を行う場合は、利用者を与える影響を考慮し、引継ぎを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康状態が不具合の場合は勤務調整をしたり、業務分担を明記している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画やステップアップと実績に考課評価している。研修後は力量育成のため、月例会議で報告と実践力を育んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会の研修に参加し、他施設との情報交換、提供などにより、私達の資質向上に繋がっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めから全ての情報は取れないこともあり、不明点は電話で情報を得ながら、信頼を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	法人母体に相談員がおり、多職種が同席することで解決策と連携ができています。		

自己 外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人母体の相談員と他職種、多方面の情報を得て面談に臨んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節や行事、職員の家庭の話題などを会話をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況たよりに、個人様のお知らせの他、翌月のご案内をしている。誕生月には、ご家族様が来所してお祝いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を大切に、馴染みの人に来所して頂くように声をかけている。	本人のみならず家族からも情報提供していただき、生活歴や心身の状況を把握している。馴染みの方が来所した場合は声がけをし、再来所を促している。馴染みの美容院等、継続して利用できるよう支援し、これまで大切にしてきた人や場所の関係が継続するように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲が良い時や気まづくなる時もあるため、その都度両者が安心するように、スイッチを切り替えて距離感を調整している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、入院先に職員が訪問したり、ご家族様に今までの話題に共感、感銘している。		

自 外 己 部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後はご本人様の心身状態に似合う様に努めている。機会があればその都度、電話やおたよりでご案内している。	入所時に利用者の思いや希望、意向を把握するため、家族からの情報収集をしている。また、利用者の意向等が十分に把握できない場合は、全職員が日常の会話、表情、しぐさ等を観察し、把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とアセスメントしている。また、ご家族様より情報を頂いたりとその場、その心身状態にコーティングしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表を作成しているが、認知症の方には、不穏になる材料と逆効果があるため、行動一つ一つを伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画が月途中で変化に応じて各項目についてモニタリングを行い、適宜ご家族の情報を受けて行っている。	利用者や家族の意向を聞き、きめ細やかなアセスメントをし、担当職員を中心に意見を出し合い介護計画を作成している。また、必要に応じて家族や関係者等からの意見を反映させ、一人ひとりにあった計画を作成している。見直しは定期的に行うほか、状態の変化や評価結果をもとに随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	心身の変化、入浴時の皮膚の観察また、食事量、体重変化がある場合は、アセスメントに明記して様子を観察し、記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には町内会や役場、ご家族様も参加されている。 家庭的に安全に暮らせるように、地域の協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の他、緊急時の点滴に数日出かけたり、眼科、泌尿器科受診とお身体を大切に過ごせるようにしている。	受診状況を記録し、把握し、利用者や家族の希望する医療機関を継続して受診できるよう支援している。受診の際は、家族へ可能な限り同席を促し、医療機関との情報交換が図られている。受診結果は家族に直ちに電話連絡し、利用者や家族の納得が得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週一回、情報収集と悩みごと心配ごとを個人に適宜伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に出向き、経過情報を確認の上、長期入院になった場合は、これからの方向性について相談員を交えて契約書に沿って説明と話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では、終末を迎えた方はいないが、指針を掲げている。ターミナルマニュアルはあり、ホームの方針をスタッフ一同理解している。	重度化や終末期のケアに対して指針を明文化しており、マニュアルを整備し、医療機関や家族との連携を図りながら支援する体制を整えている。家族・医療機関と早期から話し合いを十分に行い、意思統一を図っている。	

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命法や研修や母体の勉強会が予定されている。月一回ホームで避難練習を入居者9名が参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人母体の施設と避難訓練を行っている。地域消防、近所の挨拶と協力連携を図っている。	法人母体の施設と一緒に日中や夜間を想定した避難訓練や消火訓練を行うほか、消防署との総合訓練も実施している。非常災害時の食料品や備品を併設の母体施設と一緒に備蓄している。また、ホームの飲料水は井戸水であり、災害時の飲料水が確保できる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	開示物をご家族様の了解を頂いている。年度目標は「尊厳あるケア」を掲げて研修や勉強会での接遇姿勢が改善向上している。	外部・内部研修で個人情報保護やプライバシーについて全職員が学習し、理解している。また、排泄時や入浴時等、利用者によっては扉の外で待機する等、羞恥心に配慮をしている。個人ファイル等の個人情報の書類は事務室の引き出しに保管するなど個人情報の管理に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味や興味を表出するように、法人母体のクラブに参加している。言葉数の少ない方には、表現力や発語力を多く出来るようにジェスチャーを交えて会話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休憩時間はベットで十分休んで頂いている。各個々のペースに合わせて、食事時間を調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の洋服選びを一緒に行い、季節衣替えはご家族様におたよりに記入している。なかには、外の美容院に出掛けている方もいる。		

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節に合わせてたり、誕生月の方の意見を取り入れたり工夫している。準備や片付けはテーブル拭きでも何か出来る事を手伝っている。食事はサポートしつつ同じテーブルで摂っている。	利用者の好みを聞き、希望を取り入れたメニューとなっている。以前は一緒に食事をしていたが、食事介助者が多くなり、現在は不可能となった。食卓には職員が必ず付き、食事の介助や食べこぼしのサポートを行いながら、楽しく食事できる雰囲気を作っている。食事の準備や後片付けを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量に変化がある場合はアセスメントしている。ご本人にはその都度説明をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前後は石鹸手洗いとルゴール嗽を食事に行い、義歯除菌を徹底している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はトイレ排泄をしている。オムツ使用を減らす方向で取り組んでいる。排泄時間帯のプライバシー保護にトイレ使用時はノックしている。	排泄チェック表の記録により、職員間で情報を共有し、把握している。また、立ち上がり行動など察知し、常に事前誘導を実践している。できる限り排泄の自立に向けたケアの実践に努め、おむつの使用を継続するか否か、職員間で情報交換し、見直しを随時行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立、残食チェックから改善している。排便コントロールと服薬をスタッフ間で情報共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	クラブ、用事外出時を考慮している。入浴後は皆様が喜んでいるため、出来る限り希望に合わせている。	入浴は利用者に合わせた日程で行っており、いつでも入浴できる体制になっている。入浴を拒否される場合でも時間を変え、再度声がけをし、個々に応じて無理のない入浴支援をしている。	

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝後に眠れないと起きだしたり、不穏状態のフォローはお話や説明をする事にスイッチを切り替えたりと工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	老人の服薬について勉強している。更に個々の内服勉強を行う予定。 内服変更後の様子観察はしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に目を向け、好み、得意なことや昔の遊び事を楽しんでいる。 ご家族様が好きな物を届けてくれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や外食、散歩 ショッピングと外出機会を企画している。 地区の行事に参加している。	買い物やお墓参り、美容院等など一人ひとりの希望に応じた外出支援をしている。また、季節を盛り込んだ企画をたて、外出する機会を作っている。外出の際は法人内の福祉車両を使用し、利用者の身体状況に配慮し、身体状況に応じた移動支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族、ご本人と相談の上、多額のお金は所持しないようにしているが、外出時や受診時は小さい買い物を楽しんでいる。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の電話や手紙が届けられている。電話がしたい時は事務所から利用できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の案内、行事の写真は目線が合う位置に貼っている。 昼寝時間は居室を暗くしている。	共用スペースは天窓から陽光が入り、明るく落ち着いている。季節の飾り物や花が置かれ、ソファや小上がりでテレビを見るなど、ゆったりと過ごしやすい環境である。ホームでは小型犬を飼っており、利用者にもなついており、癒される雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間にソファや畳を置き、入居者同士和まれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやダンスを持ち込んでいる。 プレゼントや写真小物などを飾りつけている。	居室にはなじみのテレビやダンスを持ち込むなど、一人ひとりが居心地よく過ごせる空間となっている。また、行事の写真や手工芸品や工作物を飾るなど個々の特色が感じられ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	昔の生活習慣で慣れない時があるため、案内を掲示している。 その都度使い方を一緒に行っている。 居室の間口が同じであるため、暖簾で区分している。		